



今号の特集

大規模災害訓練、横浜マラソン救護体制のおはなし

2024
年
12月

⚠️ ご注意ください!
本年12月2日から
現行の健康保険証は
発行されなくなります

※12月2日時点で有効な保険証は最大1年間有効です

**マイナンバーカード
をご利用ください**
今回お持ちでない方は次回ご持参ください



マイナンバーカードの保険証利用登録がまだの方
➡ 利用登録は窓口（カードリーダー）でできます 



「大規模災害時の

医療活動訓練」



災害対策本部設置

首都直下地震が発生した想定で、医療活動訓練を行いました。院内に災害対策本部を設置して、患者や職員の安否確認をはじめ、施設やライフラインの被害情報を確認するなど、実際の災害を想定しながら診療継続ができるようシミュレーション訓練を行いました。

無線を活用し、西区役所や区内の医療機関と被災状況の確認と医療支援にかかわる情報を共有しました。
また、被災した想定医療機関に災害医療派遣チーム(DMAT)を派遣しました。

災害拠点病院とは・・・

災害時に地域の医療機関を支援する機能を有し、重症・重篤な傷病者の受入れ、医療チームの派遣など、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院のことです。神奈川県では35か所の病院が指定されており、このうちのひとつです。病院もそのうちのひとつです。

災害医療派遣チーム (DMAT)

当院は、現在、災害医療に関する研修を受けた医師、看護師、業務調整員で編成された災害医療派遣チーム (DMAT) を有しています。

令和6年1月に発生した能登半島地震にも5名の隊員を派遣しました。



詳しくは
Buddy Vol.13
をご覧ください



横浜マラソンでの 傷病者受入体制を強化

令和6年10月27日に横浜マラソンが開催されました。パシフィック横濱に隣接する臨港パーク内のゴール地点に設置された救護所に、医師・看護師等10名の職員を派遣しました。

また、当院の1階フロアに特設救護所を設置し、医師・看護師等により負傷したランナーなど20名の対応に当たったほか、事務員による救護所の運営を行いました。



☆事務員（人事課）
災害を想定して事務職員を増員配置しました。「〇時〇分に傷病者が搬送される」といった出来事を時系列で記録する経時的活動記録（クロノロジー）の作成を行い、情報収集と共有に努めました。そうした情報は、医療活動において重要な判断をするための材料であり、普段の業務では経験できない緊張感のある現場でした。

